



ドバイの水族館。ここで使われているアクリルパネルは世界最大でギネス記録として昨年認定された

## 世界の水族館から引っ張りだこの 巨大アクリルパネル

香川県木田郡三木町に本社を構える日プラは、水槽をはじめ、さまざまなアクリル製品の製造・加工を手掛けている。特に水族館のアクリルパネル分野では圧倒的な強さを持ち、これまで世界40カ国以上への納入実績がある。日本でも北海道・旭山動物園の「ほっきょくぐま館」や沖縄美ら海水族館などに同社の製品が使われている。

### ドバイ水族館のパネルが ギネスの認定を受ける

昨年、日プラは世界最大のアクリルパネル「アクアウォール」で、ギネス世界記録の認定を受けた。そのパネルはドバイ水族館の展示窓として設置されたもので、幅33m、高さ8.3m、厚さ75cm、そして重さは何と250t。それまでの世界記録は沖縄美ら海水族館に設置された幅22.5m、高さ8.2m、厚さ60cm、重さ135tのものだった。もちろん、沖縄のそれ

も同社がつくったものだ。

ドバイ水族館の場合、そのパネルで1000万ℓの水の巨大な圧力に耐えられる。しかも、75cmの厚さにもかかわらず透明で、入館者は展示されている3万3000種以上の海洋生物をはっきり見ることが出来る。

ここでアクリル樹脂について簡単に説明すると、その特徴はガラスより軟らかく、安全で、強度もあり、しかも樹脂の中では最も透明性に優れ、加工もしやすい。そのため、ディスプレイや各種ケースといったさまざまなものに使用されている。

しかし、ここまで大きなアクリルパネルをつくるには技術やノウハウが必要なのは言うまでもない。「特に水族館の場合は、大量の水を支えなければならぬので、割れることは絶対に許されない。その上、耐久性も重要で、パネルを支えているコンクリートより持たせる必要がある」と敷山哲洋社長



# 特集

ほかができないものを手掛ける企業がある。中小企業では実質売り上げ5割減続出の現下の不況でも地に足のついた形でわが道を行く。今号は、そうしたオンリーワン企業の発想と商品開発の秘話を追ってみた。

# 不況を生き抜く オンリーワン企業

取材・清水 高  
山田清志  
関根利子